Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

第九講　過去問実践演習　２０１５年第四問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

私はここ十数年南房総と東京の間を行ったり来たりしているのだが、南房総の山中の家には毎年天井裏で子猫を産む多産猫がいる。人間の年齢に換算すればすでに六十歳くらいになるのだがいまだに産み続けているのである。さすがに一回に産む数は少なくなっているが、私の知る限りかれこれ総計四、五十匹は産んでいるのではなかろうか。猫の子というよりまるでメンタイコのようである。

そういった子猫たちは生まれてからどうなったかというと、このあたりの猫はまだ野生の掟（おきて）や本能のようなものが残っていて、ある一定の時期が来ると、とつぜん親が子供が甘えるのを拒否しはじめる。それでもまだ猫なで声で体をすりよせてきたりすると、威嚇してときには手でひっぱたく。そのような過程を経て徐々に子は親のもとを離れなければならないのだという自覚が生まれる。

親から拒絶されて行き場のなくなった直後の子猫というものは不安な

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

心許(こころもと)ない表情を浮かべ、痛々しさを禁じえないが、これがいざ自立を決心したとき、その表情が一変するのに驚かされる。徐々にではなくある日急変するのである。目つきも姿勢も急に大人っぽくなって、その視線が内にでなく外に向けられはじめる。それから何日かのちのこと、不意に姿を消している。帰ってくることはまずない。

　一体それが何処(どこ)に行ったのか、私はしばし対面する山影を見ながらそのありかを想像してみるのだが、こころ寂しい半面ア<u>なにか悠久の安堵(あんど)感のようなものに打たれる</u>。見事な親離れだと思う。親も見事であれば子も見事である。子離れ、親離れのうまくいかない人間に見せてやりたいくらいだ。

　かえりみるに、私はそういった健気(けなげ)な猫たちの姿をすでに何十と見てきているわけだが、それらの猫に餌をやったという経験は一度しかない。釣ってきた魚をつい与えてしまい、その猫が餌づいてしまったのである。しかしその猫も野生の血が居残っていると見え、ある年の春不意に姿を消した。それ以降私は野良(のら)猫には餌をやらないことにしている。それはこれらの猫は都会の猫と違って自然に一体化したかたちで彼らの世界で自立していると思っているからだ。自分の気まぐれと楽しみで猫の世界に介入することによってそのような猫の生き方のシステムが変形していくことがあるとす

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

れば、それは避けなければならないということがよくわかったのである。ところが私は再びへまをした。イ死ぬべき猫を生かしてしまったのだ。

二年前の春のことである。すでに生まれて一年になる四匹の子猫のうちの一匹が死にそうになったときのことである。

遅咲きの水仙がずいぶん咲いたので、それを親戚に送ろうと思い、刈り取って玄関わきの金盥(かなだらい)に生かしていた。二、三百本もの束の大きなやつだ。

朝刈り取り、昼になにげなく窓から花の束に目をやったとき、一匹の野良猫の子が盥に手をかけて一心にその水を飲んでいる姿が見えた。その子猫は遺伝のせいか外見的にはあきらかに病気持ちである。体が痩せ細っていて背骨や肋骨(ろっこつ)が浮き出ている。汚い話だがいつもよだれを垂らし、口の回りの毛は固くこびりついたようになっている。右手に血豆のように腫れた湿瘡(しっそう)が出来ており、判コのように膿(うみ)まじりの血の手形をあちこちにつけながら歩き、これが一向に治る気配がない。口の中にも湿瘡ができており、食べ物がそれに触れると痛がる。近くに寄るとかなり強烈な腐ったような臭いがする。一年も生きているのが不思議なくらい、この子猫はあらゆる病気を抱え込んでいるように見えた。

しかしそれも宿命であり、野生の掟にしたがってこの猫は短い寿命を与えられているわけだから、私がそれに手を貸すことはよくないことだと思

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

い、そのまま生きるように生きさせておいた。

　この猫が盥の水を飲んでいたわけだが、飲んでから、四、五分もたったときのことである。七転八倒で悶（もだ）えはじめた。そしてよだれまじりの大量の嘔吐（おうと）物を吐き苦しそうに唸（うな）りはじめる。はじめ私は猫に一体なにが起こったのかさっぱりわからなかった。一瞬、死期がおとずれたのかなと思った。しかしそれにしては壮絶である。

　そのとき私の脳裏にさきほどこの猫が盥の水をずいぶん飲んでいた、あの情景が過（よぎ）ったのである。ひょっとしたら、と思う。あの水は有毒なものに変化していたのかも知れないと。球根植物にはよくアルカロイド系の毒素が含まれていることがあるものだ。以前保険金殺人の疑惑のかかったある事件もトリカブトという植物が使用されたという推測がなされたし、また秋の彼岸花などにもこの毒がある。水仙に毒があるということは聞いたことがないが、ひょっとしたらこの植物もアルカロイド系の毒を含んでいるのではないか。私は猫の苦しむ様子をみながら、そのようなことを思いめぐらし、間接的にその苦しみを私が与えたような気持ちに陥った。

　そのような経緯で私はつい猫を家に入れてしまったのである。猫がぐったりしたとき、私は洗面器の中に布を敷き、それを抱いて寝かせた。せめて虫の息の間だけでも快適にさせてやりたかったのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
３０分で１２／２０点を突破せよ！

ところがこの病猫、元来病気持ちであるがゆえにしぶといというか、再び息を吹き返したのである。二日三日はふらふらしていたが、四、五日目にはもとの姿に戻った。そしてそのまま家に居着いてしまった。立ち直ったときにまた外に出せばよかったのだが、このそんなに寿命の長そうではない病猫につい同情してしまったのが運のつきである。可愛い動物も人の気持ちを虜（とりこ）にするものだが、こういった欠陥のある動物もべつの意味で人の気持ちを拘束してしまうもののようだ。ときに人がやってきたとき、家の中にあまり芳しくない臭気を漂わせながら、あたりかまわずよだれを垂らし、手からは血膿の判コを押してまわるこの痩せ猫を見てよくこんなものの面倒をみているなぁとだいたい感心する。その感心の中にはときに私のボランティア精神に対する共感の意味も含まれているわけだが、ゥ私はそれはそういうことではない、と薄々感じはじめていた。

人間に限らず、その他の動物から、そしてあるいは植物にいたるまで、およそ生き物というものはエゴイズムに支えられて生きながらえていると言っても過言ではない。無償の愛、という美しい言葉があるが、それは言葉のみの抽象的な概念であって、そこに生き物の関係性が存在するかぎり完璧な無償というものはなかなか存在しがたい。

以前アメリカのポトマック川で航空機が墜落したとき、ヘリコプターか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ら降ろされた命綱をつぎつぎと他の人に渡して自分は溺死してしまったという人がいた。この人が素晴らしい心の持ち主であることは疑いようがない。本音優先の東洋人の中ではなかなか起こらない出来事である。彼はほとんど無償で自分の命を他者に捧げたわけだが、敬虔（けいけん）なクリスティアンである彼が、彼が習ってきた教義の中に濃厚にある他者のために犠牲心を払うということによる〝冥利（みょうり）〟にまったく触れなかったとは考えにくい。

　そういうものと比較するのは少しレベルが違うが、私が病気の猫を飼いつづけたのは他人が思うような自分に慈悲心があるからではなく、その猫の存在によって人間であるなら誰の中にも眠っている慈悲の気持ちが引き出されたからである。つまり逆に考えればその猫は自らが病むという犠牲を払って、他者に慈悲の心を与えてくれたということだ。誰が見ても汚く臭いという生き物が、他のどの生き物よりも可愛（かわい）いと思いはじめるのは、その二者の関係の中にそういった輻輳（ふくそう）した契約が結ばれるからである。

　この猫は、それから二年間を生き、つい最近、眠るように息をひきとった。あの体では長く生きた方であると思う。

　死ぬと同時に、あの肉の腐りかけたような臭気が消えたのだが、誰もが不快だと思うその臭気がなくなったとき、エ不意にその臭いのことが愛（いと）しく思い出されるから不思議なものである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（藤原新也「ある風来猫の短い生涯について」）

㈠「なにか悠久の安堵感のようなものに打たれる」（傍線部ア）とあるが、どういうことか、説明せよ。

㈡「死ぬべき猫を生かしてしまったのだ」（傍線部イ）とあるが、どういうことか、説明せよ。

㈢「私はそれはそういうことではない、と薄々感じはじめていた」（傍線部ウ）とあるが、どういうことか、説明せよ。

㈣「不意にその臭いのことが愛しく思い出されるから不思議なものである」（傍線部エ）とあるが、どういうことか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(一)	(二)	(三)	(四)

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　過去問実践演習

2015年　第四問

藤原新也「ある風来猫の短い生涯について」

要旨

本来生き物は野生の掟に従い自立して生きなければならない。しかし、野生の掟に従い死ぬ運命にあった猫を、間接的に苦しみを与えたかも知れないという責任感から、人為的に介助して生かしてしまった。しかし、筆者はその病猫と生活するうちに、その病猫の世話をしたのは筆者に元々慈悲心があったからではなく、病猫が筆者の慈悲心を喚起したからではないかと気がつき始める。病猫は自ら不快な臭気を放つほどの病気になるという犠牲を払って筆者の慈悲心を喚起し、筆者は世話をするという契約関係が生み出される。そのような関係により愛という感情は生まれるのである。したがって、愛情が残っている以上、病猫の臭気は、記憶の中に残り続けるのである。

解答　（20点）

㈠（5点）

現代の自立できない人間を憂う筆者が、親から離れた子猫が立派に自立する生き物の本来の普遍的な姿に安心感を覚えるということ。

解答ポイント

① 現代の自立できない人間を憂う筆者（2点）
② 親から離れた子猫が立派に自立する生き物の本来の普遍的な姿（3点）

㈡（5点）

野生の掟にしたがい死ぬ宿命にあった猫を、苦しみを与えた責任感から、よくないと知りつつも人為的に生かしてしまったということ。

解答ポイント

① 本来野生の掟にしたがい死ぬ宿命であった猫（2点）
② 苦しみを与えた責任感から（1点）
③ よくないと知りつつも人為的に生かしてしまった（2点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈢（5点）

病猫の面倒をみることに感心するのは、慈悲心が自分に元々あったからではなく、猫が慈悲心を与えてくれたからだと感じ始めたということ。

解答ポイント

① 病猫の面倒をみることに感心する（2点）
② 慈悲心が自分に元々あったからではなく（1点）
③ 猫が慈悲心を与えてくれたから（2点）

㈣（5点）

猫は不快な臭気を放つほど病むという犠牲を払い、筆者は慈悲心を喚起され世話をするという関係により、愛が生まれていたということ。

解答ポイント

① X＝猫は不快な臭気を放つほど病むという犠牲を払い（2点）
② Y＝筆者は慈悲心を喚起され世話をする（2点）
③ XかつY＝愛（愛にはXが必要）（1点）

解説

㈠ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「悠久の安堵感」という心情表現がポイントであることがわかる。よって、このポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「悠久の安堵感」に打たれた原因であるが、第四段落一文目に「一体それ（＝自立した猫）が何処に行ったのか、私はしばし対面する山影を見ながらそのありかを想像してみる」が、原因であることがわかる。ただし、これだけでは不十分である。「猫がいなくなった」から「安心」というのは飛躍がある。よって、この飛躍を埋める条件を求める。

すると、第四段落四文目に「子離れ、親離れのうまくいかない人間」とある。①現代の人間は「子離れ、親離れ」がうまくできないということを憂いている筆者にとって、「見事な親離れ」をする猫は、「安堵感」をもたらすものとなる。また、②「子離れ、親離れ」がうまくできないというのが「現代」の特徴であるとすると、「親離れ」ができるというのは、「昔から」の生き物のあり方を示しているので、「悠久」の安堵感となるのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(二)　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「死ぬべき猫」という筆者特有の表現、「生かしてしまった」という筆者特有の表現がそれぞれポイントであることがわかる。よってそれらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「死ぬべき猫」であるが、第十段落に①「それ（＝あらゆる病気を抱え込んでいる）も宿命であり、野生の掟にしたがってこの猫は短い寿命を与えられている」ということである。

また、「生かしてしまった」であるが、第十段落にあるように「それに手を貸すことはよくないことだと思い」ながらも、第十三段落にあるように②「そのような経緯（＝私が苦しみを与えたような気持ちに陥った）」で、③「私はつい猫を家に入れてしまった」ということである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(三)　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「それ」という指示語、「そういうこと」という指示語、「ではない」という「否定」のフレームワークがそれぞれポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「それ」であるが、第十四段落七文目の「その感心」を指している。そして「その感心」は同段落六文目の「ときに人がやってきたとき、家の中にあまり芳しくない臭気を漂わせながら、あたりかまわずよだれを垂らし、手からは血膿の判コを押してまわるこの痩せ猫を見てよくこんなものの面倒をみているなぁとだいたい感心する」とある。つまり「それ」は①「病猫の面倒をみることに感心すること」である。

次に「そういうこと」と「ではない」であるが、同段落七文目のA「私のボランティア精神に対する共感の意味」「ではない」ということである。では、「AでなくB」の「B」は何かと考えて、本文を読んでいくと、第十七段落一文目に「私が病気の猫を飼いつづけたのは他人が思うような自分に慈悲心があるから」ではなく、「その猫の存在によって人間であるなら誰の中にも眠っている慈悲の気持ちが引き出されたから」とある。そして、「B」をまとめた文として、同段落二文目の「その猫は自らが病むという犠牲を払って、他者

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

に慈悲の心を与えてくれた」という部分になる。
つまり、②A筆者は慈悲心がある自分に感心しているのではなく、③B慈悲心を与えてくれた猫に感心しているのである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈣　傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「その臭い」という指示語、「愛しく思い出される」という筆者特有の表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、それらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「その臭い」であるが、第十九段落にある①「あの肉の腐りかけたような臭気」である。ところが、これはどう考えてもよさそうには思えない。ここには飛躍がある。

次に「愛しく思い出される」であるが、「愛」が生じる条件を捉えると、第十六段落三文目に「誰が見ても汚く臭いという生き物が、他のどの生き物よりも可愛いと思いはじめるのは、その二者の関係の中にそういった輻輳した契約が結ばれるから」とある。このなかの「そういった輻輳した契約」が指示語と筆者特有の表現であることから、ポイントであることがわかる。

「そういった輻輳した契約」とは、第十七段落一文目二文目にあるように①X「猫は自らが病むという犠牲を払って、他者に慈悲の心を与え」かつ、②Y「人間であるなら誰の中にも眠っている慈悲の気持ちが引き出された」筆者が、「病気の猫を飼いつづけた」という関係のことを言っている。つまり、「愛」が生じるためには、③「XかつY」が必要であることがわかる。すると「愛」が筆者に残っている以上、たとえX「臭気を放つ猫」が死んだとしても、「筆者の愛」はX「臭気を放つ猫」を必要とするので、思い出されるのである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。